

は、中小商工業であり農村であつた。従つて、こゝらも如何にして救済し、更生せしめよかは社会政策上よりするも、また恐慌克服の見地よりするも極めて重大な問題であつた。然し、當時我國に於ては之の爲めの具体策を未だ確立し得ない現状にあつた。従つて、その適切な對策を得るためには、産業問題、労働問題、農村問題等に就て理論的研究調査をなすと同時に我國産業の現状を究明し、その具体的缺陷と事實に就て認識し、その正確な調査の結果に基いて實地に即した労働問題の解決方法、中小商工業困難の打開方法、農村不況の打開方法、小作争議の解決方法等を攻究し、之を實際に即して解決方法と見出し、而して我國現下の諸困難を解決するたための生きた参考資料となすことか有益であるとの趣旨の下に、

特定の工業地及び農村を指定して、調査並に指導を行ふことを計畫し、工業地としては我國に於ける典型的中小工業地と見做される鑄物工業地たる埼玉縣川口町を選定し、農村としては同じく埼玉縣井泉村を選定して、その両地に昭和七年四月一日本會臨時出張所を開設した。川口町臨時出張所に於ては参事石原太藏氏を主任とし、井泉村臨時出張所に於ては農村課長参事松村勝彦郎氏を指導者として、こゝらの劃期的實地調査を進められた。両地共先づ實地調査が行はれたが、最初はこの種の調査に有り勝ちな種々な困難を経験せざるを得なかつたが、次第に地元民の協力を得ることによつて、夫々「川口鑄物業實地調査」及び「井泉村基本調査」を完成し、この基本調査に基いて經濟更生の爲の指導が行はれたが、